

これからの 鑑賞のヒント

パネルディスカッション &
ワールドカフェ（意見交換）の
感想を聞かせてください。



参加者の
声

「みんな独自の工夫をしているのに、実践紹介の場がないよ… もったいないな…」

「鑑賞が、さがす・くらべる・まねをする。いいヒントをもらいました。楽しかったです。」

「体験型鑑賞法の工夫・実践」

「鑑賞をする（させる）ためには、必ず目的やきっかけ・働きかけを用意しておくことが大切だと思いました。」

「学芸員の方のお話をお聞きできてよかったです。美術館と学校がもっと連携していきたいと思いました。」

「私は自分で絵を描いて学校に展示しています。（現在作品数98点）子どもたちは、絵を一人でじっとみたり、友達と対話しながら『こういうこと言いたいんじゃない』と話しています。今日のお話が、それにどういう価値があるか、理解するヒントになりました。ありがとうございます。」

「掲示することで鑑賞が生まれる」

「美術館の活動についてのいろいろなお話がとてもよかったです。たくさんの工夫するきっかけがありました。」

「子どもたちのいい顔がたくさん見られるような鑑賞の授業ができるといいです。」

「美術館で鑑賞させるときは、パネリストの方が紹介されていたように、いくつかのテーマや
問いかけ・ナゾ解きのようなものを提示し、それを自分の目で確認しに行くような活動をさせたい。」

「校内事情・予算・生徒指導などのことから、気軽に連れていけない現状があります。」

教育委員会などが小学校低学年から必ずプランするなどの荒業があるといい。」

「鑑賞はどうするのかよく分かりませんでした、鑑賞の仕方が少し分かりました。」

「重複障害の子どもの視野を追って、支援者が『～だね～』と言葉をそえることで視線を動かすようになる、と聞きました。すると、美術鑑賞でも同じことができるのでは。」

「鑑賞というと、見て、その感想をワークシートに書くというイメージが自分の中で大きかった。だが、対話をしたり、動作化したり、造形遊びと結び付けたりと、子どもたちの作品に対する楽しさを引き出すことを念頭に置きたいと思った。」

「何かを探す・比べるなど、子どもたちが絵にぐっと興味をもつような刺激をうまく与えられるようになりたいなと思いました。子どもの反応にどう問いかけるか、どう同調していくかなど、教師の役割も改めて感じた。」

「何かを探す、比べるなど、子どもたちが絵にぐっと興味をもつような刺激をうまく与えられるようになりたいなと思いました。子どもの反応にどう問いかけるか、どう同調していくかなど、教師の役割も改めて感じました。」

「子どもたちは、画家の方の絵に触れることが少ないので、是非美術館の絵を見せたいと思いました。」

「見たこと・感じたことには、正解ばかり。まちがいはないというルールをしっかりと伝えて、あんしん鑑賞☆」

「鑑賞の中での対話を大切にしていきたい。でも、鑑賞の中だけではなくて、活動中の対話・つぶやきからも学ぶことがあるとあらためて感じた。」

「子どもの満足なのか、先生の満足なのか、何をもって判断するのか疑問に感じました。その場での子どもの笑顔ではなく、将来その子どもが大きくなったときにこそ、幼年期の鑑賞の成功の是非が現れるのではないのでしょうか。」

「カフェ形式の対話 初対面の方ともいろいろ話ができ、情報交換ができてよかったです。職種も立場も違う方と話ができました。」

「鑑賞の様々なアイデアを得ることができてとても楽しめました。パネラーの方々のお話をもう少し聞けたらよかったと思います。」

「対話型鑑賞のよさを自分が実際に体験したいと思います。」

「ワールドカフェはやっぱり場が大切では…腰が痛いよー (>_<)」

「言葉を説明できないこどもでも、同じ目線に立って、良いところを感じて共有」

「鑑賞と表現は一体。その人（子）の経験や思いが鑑賞に反映されるのは当然のことと思います。表現することと同じと考えます。他者とオープンマインドで自分を語ることを目指していきたいと思いました。」

「いろいろな鑑賞の在り方を学ぶことができた。また『みる』経験を豊かにできるよう、条件や環境・経験…を整えたり準備したりしていきたいと思いました。」

「どの先生方も、これからどんな鑑賞の授業をやってみるか手探りで考えていることが分かりました。色々研究していきたいと思います。」

「岡田先生をはじめとした3人のパネリストの方のお話、ワールドカフェにより、多様な鑑賞方法や鑑賞に関する考え方にふれることができた。大変勉強になりました。2学期、楽しい授業を目指してまたがんばりたい！」

「教師側の都合をとっぱらいやすいのが鑑賞かな。否定せず、広げて寄り添っていく教師の懐の深さが求められている。」

「図工の時数が少なくなり、普段絵を描くとなると、美術展に向けてなんとか描き上げる！ということに力が入ってしまっています。今日のお話をお聞きし、鑑賞をもっと大切にしなければならないと感じました。様々な鑑賞方法を教えていただき、ぜひやってみたいと思いました。ありがとうございました。」

「鑑賞・つくる活動は、生き方と同じ。考え・模倣し、答えを出して自分の作品をつくっていく、対話を大切にしたい授業を取り入れていきたい。」

「鑑賞について、いつもじっくり本物を見せたいと思っていましたが、交通手段・人数などの問題があり、難しい。音楽や演劇のように、教育委員会で枠を作っていただけるとありがたいです。」

「鑑賞を通して共有する楽しさを味わうこと。自分自身の発見につながること…いいことがいっぱいです。授業を大切にしていきたいと改めて感じました。」

「『トリップ』という言葉が印象的でした。非日常を味わってもらうことが感情を豊かにする。

鑑賞も子どもの学び、生きる姿勢と同じだということが確認できてよかった。

対話式鑑賞でオープンエンドになる不安を感じる。ねらいはやはりもち、教えたこと…は伝えられるようにしなくてはいけない。」

「鑑賞の楽しさを子どもに味わってもらいたいと思いました。対話型鑑賞というものをやってみたいです。」

(まずは、自分が体験してみたいです。)

「作品を全部みせなきゃいけない と今まで思っていたのですが、1点でもいいので、作品に浸ることができればよいというお話を聞いて、鑑賞における大切な視点に気付かされました。今日のパネルディスカッションで教えていただいたことを今後の授業で、生かしていきたいと思います。ありがとうございました。」

「意図的に作品に出会わせること、積極的に作品に向き合えるように仕向けること、教師の大切な役割だなと感じました。」

「鑑賞に自由さもあるが、見方を伝えるのも大切。それをうまく子どもの中で調整するためには、鑑賞のタイミングややり方（対話）などが必要だなと思った。経験を積んでいきたい。」

「鑑賞も感じ方が更新され進化する。『人の生き方と同じ』には、全く同感です。鑑賞を通しての生き方教育をがんばってみたいです。」

「情報交換は、結局『ぐち？』というか問題が浮き彫りになっただけでした。難しいですね。」

「幼稚園から来ました。正直、テーマが難しいな、どういう事かな？幼稚園と美術館？？あまり結びつかないまま参加させてもらったのですが、先生方の話を聞いて、より身近に幼稚園でもできることがあるんだと分かり、早速実践してみたいと思いました。子どもたちの反応が楽しみです。」

「つつい『知識』や『技法』に陥りがちの鑑賞だったのですが、『共感』って大きな要素なんだなあ～！と発見しました。」

「鑑賞活動や授業の様々なアイデア、現場の先生方の図工・美術に対する熱意に触れ、有意義な研修の場となりました。」

「自分がひかれる作品をまず見付けること。同じ目線で同じものを見て『すごいねー』と共感できること。『美術館に来るんだ』というワクワク感を大切に。図工・美術だけではなく、全ての活動で応用できそうです。」

「一人一人が今までよりも少しずつ『美術』に自分から近付きたくなるような授業を目指していきたくてと思いました。」

「ギャラリートークについて話し合い（方法や工夫点）や情報交換ができるのもっとよかったと思いました。」
『鑑賞の持つ力』感性をみがくことの大切さを再確認しました。」

「対話型にしても鑑賞は日常的にあることで、気楽（？）にやることができると思う。」

「タイトルを付ける、まねる、等、いろいろな鑑賞の仕方に挑戦していきたくて思います。」

「美術館の素晴らしさを再確認しました。美術館と授業（鑑賞）のつながりがもっと深く持てたらよいと思います。交通手段が何とかできれば、学校の利用が増えると思います。こんなに素晴らしい美術館・作品に触れる機会、子どもたちにももたせたいです。」

「放っておいたら、足が向かない敷居の高さがある美術館。現場から変えていきたいという気がしてきました。一部のインテリのために絵画があるのではないと気が付きました。」

「鑑賞は自分なりに実践してきたが、『探す』『比較する』が多かったので『まねをする』なども挑戦していきたくて。
学芸員の方の歩みについて知れてよかった。ぜひ、来ていただいたり連れてきたりしたいと思う。」

「今までは、鑑賞として表現の最後の学習として行っていた。対話型鑑賞を行ってよいのかなと思った。」

「『楽しさ』を経験させる→この表現が一番しっくりときた感じがします。」

「美術館で生で見る経験、学校で友達作品を見る経験など様々な形態の鑑賞を組み合わせたいと思いました。」

「『鑑賞』という言葉に対しての漠然とした『難しさ』みたいなものが少し和らいだような感じがします。」

「作品のいいところを見付けることが鑑賞という意識が強かったのですが、『さがす』『くらべる』『まねる』など作品をいろいろな見方をするのが鑑賞なんだと感じました。いろいろな感じ方があってよいのだと分かって楽になりました。」

「子どもの表情が楽しそうでよかったです。美術はやっぱりいいナァと思いました。」

「鑑賞…『見る』だけで終わらないためにどのような手立てが必要か考えたいです。」

「いろんな作品に出会う楽しみを子どもたちに感じさせたいと思いました。
鑑賞は読書やスキーと同じと言うことで、小さいうちに経験させたいと思いました。」

「とても勉強になりました！今回見た作品の一部を（母と子、など）授業に取り入れてみたいと思います。ありがとうございました。」

「子どもたちがよい作品に出会う機会を、意図的に作っていかなくてはと思いました。
対話型鑑賞をしていきたいと思いました。」

「鑑賞を通して、共有する楽しさを味わうこと、自分自身の発見につながる…いいことがいっぱいです。授業を大切にしたいと改めて思いました。」

「たくさんの方と鑑賞について情報交換をすることができて、よかったです。美術館と連携した鑑賞活動を行ってみたいと思いました。」

「新しい鑑賞の視点が見付かりました。しかし、やらなければ、悲しいかな、すぐ忘れてしまいます。忘れる前にどんどん実践していきたいと思います。」

「視点を与えた鑑賞活動の大切さを感じました。日頃の鑑賞活動を充実させていきたいと思いました。」

「シンポジウム、ワールドカフェと、大変盛りだくさんな内容でした。また、ディスカッションの機会があればと思います。
意識的に鑑賞活動を進めることで、鑑賞も理解も深めていくことができるという確信を持ちました。
宮下さんの事例も改めて学ばせていただきました！ありがとうございました。」

「対話型授業を通して美術教師としてやりたいことがたくさん見付けられました。子どもの感性を信じつつ育てる。」

「鑑賞が自分が思っていたものよりももっと身近なものであることを知りました。
非日常の世界の中で自分の感じ方・見方を見つめ直し、更新してみたいと思いました。」

参加者の皆様
ありがとうございました
また、美術館で
会いましょう